

道本部第20回定期大会 今こそ建交労綱領の本領を発揮し 安倍9条改憲を阻止しよう

10月6～7日、建交労北海道本部第20回定期大会を北広島市「北広島クラッセホテル」で開催しました。大会には代議員・道本部役員・傍聴者など60人あまりが参加して、「国民的共同で9条改憲を必ず阻止しよう／全ての要求闘争を前進させる強大な建交労をつくろう」のスローガンのもと、2019年度運動方針などを満場一致で決定しました。

大会では道本部の森国委員長が、安倍首相が掲げてきた数々の「スローガン」が失策に終わり安倍政権が行き詰っていることを示していることを述べて、10月4日に始まった臨時国会での最大の争点は「安倍9条改憲」であり、悪政をなんとしても阻止しなければならないと強調しました。そして、全国一律最低賃金制度の確立、じん肺根絶に向けたとりくみなどの前進にふれながら、「労働組合の力を結集して仲間を増やし、ラグビーワールドカップの日本代表のようにスクラムを組んで要求闘争を大きく前進させよう」とあいさつしました。

宮澤書記次長は議案の提案で「暴走政治に終止符を打つためにも市民と野党の共闘をさらに前進させ、いまこそ建交労綱領の本領を発揮して要求闘争を前進させよう」と強調しました。討論では9人の代議員が発言し、「第4次中期計画にもとづく組織拡大で、全組合員参加のとりくみをすすめること、アンケートを使った対話など、次世代につながるとりくみを視野に入れることが重要だ。全道の仲間とつながってたくさんの活動家をつくりだし、来年の道本部結成20周年を増勢で迎えよう」と宮澤書記次長が討論のまとめをおこないました。

新しい書記長に宮澤毅さん

大会では新年度役員の選挙をおこない、森国委員長・深浦副委員長・小玉副委員長などを再選するとともに、新しい書記長に宮澤毅さん（前書記次長）を選出しました。この大会で、俵前書記長と栗野前会計監査が退任しました。

全国鉄道本部大会 北海道から4人が参加し発言

9月14～15日に全国鉄道本部第22回定期大会が開かれ、北海道鉄道本部から竹田委員長をはじめ4人が参加しました。大会では、「建交労」誌の全員購読と春闘アンケートのとりくみを通じて「組合の活動を知ってもらう」こと、北の鉄道を守るとりくみと職場交流で「組織の強化と拡大」をめざしている、先が見えない経営状況から若年退職が増加し職場環境が悪化している、北海道新幹線の赤字とローカル線の切り捨てのもとで「道民が望むものは新幹線ではなく地方路線の存続」であることなど、それぞれの視点で4名の代議員が発言しました。

大会では全国のたたかいの中で要求が前進している成果が報告され、本州三社と三島・貨物会社との賃金や待遇に大きな格差が生じており、設備投資や安全対策に使える財源にも大きな差があって利用する国民の安全・安心への影響などを改めて認識することができました。分割民営化からの32年を検証し、国の支援のあり方を考え直すことが急務となっており、政府やJR会社に「ものを言える組合」の存在意義を再確認し、この組合を大きくすることを目標に引き続き奮闘する決意を深めた大会でした。